

策定の背景、目的

①背景

『横浜市では、平成7年度から和泉川流域をモデル流域として、関係部局より構成された「和泉川水循環再生流域協議会」を設置し、水循環に関わる課題や水循環再生のための計画目標ならびに基本的な施策について検討し、その成果として平成10年3月に「和泉川流域水循環再生構想」を策定いたしました。

一方、平成11年10月に策定された、水循環に関する総合的な整備方針を定めた「水環境マスタープラン」に基づき、平成13年度より関係部局による「和泉川水循環再生推進会議」を設置し、具体的な取り組みの検討をすすめ、ここに和泉川流域における水環境行動計画として「和泉川流域水循環再生行動計画」(案)を策定しました。

今後、この行動計画(案)に基づき、関係部局が連携しながら水循環再生のための諸施策及び総合的な水環境施策を進めてまいります。』

②計画の基本理念・目標

「和泉川流域水循環再生構想」では、水循環再生の基本理念や基本方針に対して一般市民の人々にも、それらの認識が共有できるよう、以下のとおり客観的評価として水循環再生の計画目標を定めている。

- ・「過去」(昭和30年代)の水量、水質を再生する。
- ・「過去」の清澄な湧水を再生する

また、単に「川の水量や水質を豊かにする」といった発想ではなく、流域を広く覆う関東ロームという「自然の浄化装置を活かした循環型のまちづくり」を推進することを基本理念として掲げている。

③計画期間

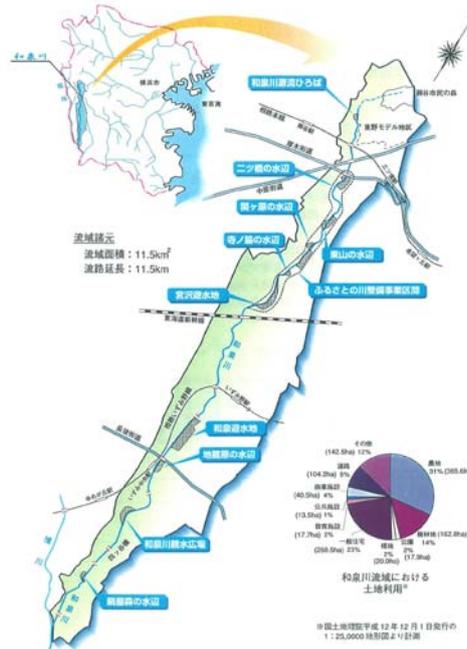
水循環再生の計画目標の実現は概ね40年後を目途とし、行動計画の段階的整備目標を10年後(2010年)とする。

現況把握

流域(行政区)の現況

流域面積：11.5km²

流路延長：11.5km



<p>課題</p>	<p>①平常時の水量確保と汚濁制御 まずは川に水量があることが重要である。川の水質は以前に比べ、だんだん良くなっている状況にある。</p> <p>②地下水・湧き水の保全 湧き水は流域において、ワサビや米等の農業用に使われている。また、沿川の崖地では野菜を洗ったり、スイカを冷やすのに井戸水が使用されている。最近では、沿線の斜面緑地までもが開発されつつある。</p> <p>③生態環境の保全 流域の森ではゲンジボタルが生息している場所があるが、全滅してしまった場所もある。</p> <p>④洪水被害 河川改修後で洪水被害は減ったが、地表面のアスファルト化・コンクリート化により、雨が降ると一気に激流が川に流れて、その後水はすぐに引けてしまう。</p> <p>⑤環境教育 より多くの住民に環境問題を理解させることが重要であり、源流や湧水などの水環境が、和泉川に関心をもたせるきっかけとなると考えられる。</p>
<p>対策の方針</p>	<p>対策の基本方針 『「和泉川流域水循環再生構想」では、和泉川流域の水環境上の課題等を踏まえ、以下にしめす基本方針を定めています。基本方針に基づき、流域での水循環に係わっている行政、市民、企業等が協働し、和泉川流域の健全な水循環再生を目指します。』</p> <div style="text-align: center;"> <p>和泉川流域水循環再生の基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ①五感に感じる豊かな流れの確保 ②原風景、ふるさと景観の保全と創出 ③まちづくりとひとづくり </div>

具体的対策の概要と評価

① 具体的対策の概要

1) 緑のオープンスペースの確保

- ・農地の保全 ・樹林地の保全
- ・公園の整備 ・住宅地、公共施設等の緑化推進

2) 雨水浸透施設の設置

ア) 一般住宅への雨水浸透施設の設置

- ・雨水浸透施設の設置PR、指導
- ・住宅新築、改築時の浸透施設設置のお願い
- ・接続雨水浸透ますの設置 ・普及のための取り組み

イ) 道路への雨水浸透施設の設置

- ・浸透性舗装の整備 ・雨水浸透施設の設置
- ・普及のための取り組み

ウ) 学校施設への雨水浸透施設の設置

- ・雨水浸透施設の設置

エ) その他公共施設等への雨水浸透施設の設置

- ・新築または改築時の公共施設に対する雨水浸透施設の設置及び指導
- ・既存の公共施設に対する雨水浸透施設の設置及び指導
- ・新築または改築時の商工業、業務施設に対する雨水浸透施設の設置及び協力依頼
- ・既存の商工業、業務施設に対する雨水浸透施設の設置及び協力依頼
- ・普及のための取り組み

3) 雨水貯留施設の設置

ア) 学校施設への雨水浸透施設の設置

- ・雨水貯留施設の設置

イ) その他公共施設等への雨水貯留施設の設置

- ・宅地開発等における雨水貯留施設の設置指導
- ・宅地開発等における雨水貯留施設の浸透化の検討

4) 下水道設備と水洗化率の向上

- ・公共下水道の整備 ・公共下水道への接続

5) 水を活かした地域づくり

ア) 河川整備の促進

- ・河道改修 ・河川浄化施設の維持管理

イ) 下水道整備と浸水空間整備

- ・流域内水路モデル地区の整備推進

ウ) 湧水の保全・活用

- ・湧水・保全活用モデル地区での施策の推進

6) 市民との協働による水循環再生への取り組み

- ・雨水浸透ますの設置 ・水辺整備
- ・樹林地・農地の保全活用 ・緑化の推進

各施策に期待される主な効果の一覧表

施策	期待される主な効果	平常時河川流量の増加	湧水・地下水の保全再生	動植物の生息場所の確保	親水性の向上	河川水質の改善	洪水被害の軽減	街路樹の育成	ヒートアイランド現象の緩和	河川へ流れ込む汚濁負荷量の削減	市民との協働によるまちづくり・水辺づくりの推進	行政、市民及び企業による協働活動の推進、担い手となる人づくり
緑のオープンスペースの確保		○	○	○	△	○	○	△	○	○	△	△
雨水浸透施設の設置		○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	△
雨水貯留施設の設置		△	△	○	○	△	○	—	△	○	○	△
下水道整備の促進	水洗化	—	—	—	—	○	—	—	—	○	—	—
	雨水幹線	○	△	○	○	△	○	—	△	—	△	△
河川整備の促進	河道改修	○	—	○	○	—	○	—	—	—	—	—
	水辺空間の整備	○	△	○	○	△	○	—	△	—	△	△
	河川浄化施設の整備	—	—	△	△	○	—	—	—	○	—	—
水を活かした地域づくり		△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○
市民との協働による水循環再生への取り組み		△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○

○：直接的な効果、△：副次的な効果、—：該当なし

②実施スケジュール

上記のうち一部の施策では、年次計画として「平成12年末時点」「平成18年（2006年）」「平成22年（2010年）」に分類して行動計画を定めている。

③対策効果の評価

対策効果の評価については、観測モニタリングを、現在行われているものを継続するとともに、市民、ボランティア団体、企業が一体となっていくことのできる住民参加型のモニタリング体制を検討する。

	<p>水文観測の状況を以下の図に示す。</p> <table border="1" data-bbox="335 280 1332 1064"> <thead> <tr> <th data-bbox="335 280 510 347">観測名</th> <th data-bbox="510 280 949 347">観測場所</th> <th colspan="2" data-bbox="949 280 1332 347">主な関係部署</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="335 347 510 537">雨量</td> <td data-bbox="510 347 949 537"> <ul style="list-style-type: none"> 流域全体の平均的降雨量を把握するための雨量観測を継続する。 現在、和泉川流域においては以下の2箇所で実施されている。 瀬谷土木事務所 泉土木事務所 </td> <td data-bbox="949 347 1141 537">下水道局</td> <td data-bbox="1141 347 1332 537">河川部 河川計画課</td> </tr> <tr> <td data-bbox="335 537 510 772">河川水位</td> <td data-bbox="510 537 949 772"> <ul style="list-style-type: none"> 東野モデル地区及び流域全体の土地利用変化に伴う河川流出量の応答を定量的に把握するための河川水位観測を継続的に実施する。 現在和泉川流域においては以下の2箇所で実施されている。 二ツ橋上流 主水分橋下流 </td> <td data-bbox="949 537 1141 772">下水道局</td> <td data-bbox="1141 537 1332 772">河川部 河川計画課</td> </tr> <tr> <td data-bbox="335 772 510 1064">地下水位</td> <td data-bbox="510 772 949 1064"> <ul style="list-style-type: none"> 東野モデル地区及び流域全体の土地利用変化に伴う地下水位の応答を定量的に把握するための地下水位観測を継続的に実施する。また、東野モデル地区については、ボランティア活動による地下水位観測を検討する。 現在和泉川流域においては以下の箇所で実施されている。 東野地区内（5箇所） </td> <td data-bbox="949 772 1141 1064">下水道局</td> <td data-bbox="1141 772 1332 1064">河川部 河川計画課</td> </tr> </tbody> </table>	観測名	観測場所	主な関係部署		雨量	<ul style="list-style-type: none"> 流域全体の平均的降雨量を把握するための雨量観測を継続する。 現在、和泉川流域においては以下の2箇所で実施されている。 瀬谷土木事務所 泉土木事務所 	下水道局	河川部 河川計画課	河川水位	<ul style="list-style-type: none"> 東野モデル地区及び流域全体の土地利用変化に伴う河川流出量の応答を定量的に把握するための河川水位観測を継続的に実施する。 現在和泉川流域においては以下の2箇所で実施されている。 二ツ橋上流 主水分橋下流 	下水道局	河川部 河川計画課	地下水位	<ul style="list-style-type: none"> 東野モデル地区及び流域全体の土地利用変化に伴う地下水位の応答を定量的に把握するための地下水位観測を継続的に実施する。また、東野モデル地区については、ボランティア活動による地下水位観測を検討する。 現在和泉川流域においては以下の箇所で実施されている。 東野地区内（5箇所） 	下水道局	河川部 河川計画課
観測名	観測場所	主な関係部署															
雨量	<ul style="list-style-type: none"> 流域全体の平均的降雨量を把握するための雨量観測を継続する。 現在、和泉川流域においては以下の2箇所で実施されている。 瀬谷土木事務所 泉土木事務所 	下水道局	河川部 河川計画課														
河川水位	<ul style="list-style-type: none"> 東野モデル地区及び流域全体の土地利用変化に伴う河川流出量の応答を定量的に把握するための河川水位観測を継続的に実施する。 現在和泉川流域においては以下の2箇所で実施されている。 二ツ橋上流 主水分橋下流 	下水道局	河川部 河川計画課														
地下水位	<ul style="list-style-type: none"> 東野モデル地区及び流域全体の土地利用変化に伴う地下水位の応答を定量的に把握するための地下水位観測を継続的に実施する。また、東野モデル地区については、ボランティア活動による地下水位観測を検討する。 現在和泉川流域においては以下の箇所で実施されている。 東野地区内（5箇所） 	下水道局	河川部 河川計画課														
<p>策定時の住民の関わり</p>	<p>懇談会等の開催</p> <p>和泉川地域懇談会やモデル地区におけるイベント、ワークショップなどを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 東野モデル地区イベント「東野 雨を大地に戻そうキャンペーン」 東野モデル地区ワークショップ「出乳神さまを探そう」 相沢小学校 環境学習ワークショップ「小川アメニティを考えよう」、「水循環再生のまとめと小川アメニティ工事の参加について」 																